

■ 開設年度		■ 開講部局	
2013		共通教育	
■ 科目名			
公共哲学論（近世編）			
■ 英語科目名			
Public philosophy theory			
■ 前後期	■ 開講区分	■ 科目形態	■ 単位数
前期	毎週	講義	2
■（25年度以降入学生）中分類		■（25年度以降入学生）小分類	
b. 知力：人文・社会科学		9. 歴史・地理を学ぶ	
■（24年度以前入学生）大分類		■（24年度以前入学生）中分類	
教養科目		分野2	
■ 受講学部学科			
全			
■ 担当教員		■ 担当教員所属	
吉田健一		稲盛アカデミー	
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）	
099-285-3756		k5621643@kadai.jp	
■ オフィスアワー（授業時間外の対応）			
毎週水曜日午後 事前に連絡を頂ければ、正規のオフィスアワー以外の時間であっても対応致します。			
■ 共同担当教員			
■ メインキーワード		■ サブキーワード	
■ 授業概要（目的・内容・方法）			
今日、我々を取り巻く環境は、公共性に関する新たな思索とそれを論理化する学問を必要としている。しかし、所謂「哲学」は、専門分化して、現実社会をどうするか？という大きな問題に対処できなくなって来てしまった。 一方、個別具体的な社会科学も実証主義に陥るばかりで、あるべき社会像を議論するという大きな志を失っている。現実を分析する事も大事ではあるが、社会現象を分析すると共に、社会に対する理想、哲学がなければ、ここ数年来の日本の現状に見られるようにひたすら現実追認の社会しかやって来ない。 本講義の目的は、近世から近代・現代の日本の思想家を概観する事によって、「政治」・「公共」・「哲学」・「思想」をキーワードに、今後のあるべき人間社会を考える事である。「近世編」では、江戸時代から幕末を経て明治の初めまでの思想家を取り上げる。特に、横井小楠の『国是三論』を丁寧に読む予定である。			
■ 学習目標			
1) 日本の近現代史の中で、「公共」について思索した思想家・学者の思想について理解する。			
2) 今日の日本の抱える問題を具体的に解決する方策として、過去に学び未来を作るという観点で新しい公共性について考察する。			
■ 授業計画（15回に分け、回数、授業内容、自学自習等）			
1. 日本の近世・近現代の思想について			
2. 江戸の商人道徳 石田梅岩（1）			
3. 江戸の商人道徳 石田梅岩（2）			
4. 江戸の商人道徳 石田梅岩（3）			
5. 幕末の思想家 横井小楠（1）			
6. 幕末の思想家 横井小楠（2）			
7. 幕末の思想家 横井小楠（3）			
8. 幕末の思想家 横井小楠（4）			
9. 幕末の思想家 横井小楠（5）			
10. 明六社			
11. 福沢諭吉（1）			
12. 福沢諭吉（2）			
13. 自由民権運動 中江兆民（1）			
14. 自由民権運動 中江兆民（2）			

15. まとめ

■ 授業外学習(予習・復習)

■ 受講要件	■ 成績の評価基準
特にないが、近世・近現代の日本の思想家・学者に関心をもっていると良い。	(1) 毎回のフィードバックシート(50%) (2) 期末レポート(50%)を総合的に評価。 暗記による知識の定着を問うものは実施せず、感じたこと、考えた事をどれだけ自身の言葉で表現できるかをフィードバックシート、レポートで問う。オリジナリティを評価の対象とする。但し、レポート執筆に当たって最低限の知識は必要となる為、講義には3分の2以上出ることをレポート提出の条件とする。
■ 教科書	■ 参考書
最初の講義時に教科書用オリジナル冊子を受講生に配布	『都鄙問答』(石田梅岩・岩波文庫)、『佐久間象山・横井小楠』日本の名著・中央公論社・昭和45年、『横井小楠』圭室諦成・吉川弘文館・1967年、『横井小楠—維新の青写真を描いた男—』徳永洋・新潮新書・2005年、他多数。講義中に随時紹介する。
■ その他	